

今こそ、震災ボランティアを

“私たちができる何か”をしよう

巨大地震が東日本を襲ってから1か月。大津波・原発事故……被災地の惨状は目を覆うばかりです。今こそ、阪神大震災のボランティア経験を生かし、“私たちができる何か”をすべきではないでしょうか。グループわでも、救援募金を手始めに、息の長い支援活動をしようと、プロジェクトチームを発足させて具体策を練っています。(15日の〈わ〉運営委員会で説明します) 【ビル屋上に乗った観光船(3月12日、読売新聞提供)】

緊急募金は47万円

グループわが、部会・地区会の協力をえて3月15日から緊急に始めた救援募金は、4月初めまでに約47万円が集まり、福祉振興協会(しあわせの村)を通じて神戸市に寄託しました。市は他の募金と合わせ、お米や缶詰、タオル、洗剤、食器、長靴など避難所生活に欠かせない物資を購入。子供たちが書いた「負けないで」「がんばろう」などの応援メッセージとともに、現地に派遣する市職員に託されました。物資は仙台市・釜石市・大槌町へ届けられる予定です。



救援検討チーム発足

次いで4月5日の理事会で、「どういう支援活動を、いつからするか」といった具体案づくりのためのプロジェクトチーム(代表・道満俊徳)を発足させました。

さしあたって、①募金活動の継続 ②子供たち向けの物資購入 ③神戸市へ避難している被災者への慰問——を3本柱に行動を起こすことを決めました。いずれも、子供たち向けの支援・慰問活動を中心に考えています。スタッフとしてお手伝いいただける方、協力いただけるクラブ・グループは、ぜひご連絡ください。

物資配送「元気SKYP」で

1) 募金箱は、カレッジロビーのほか、傘下の全クラブに協力を求めて70個を配布する予定です。イベントなどの際に呼び掛けをお願いします。救援募金はグループわのほか、社会福祉協議会、ボラセンなどもキャンパス内で実施しています

2) 子供たちへの救援物資は、おもちゃ、本、文房具などが考えられます。グループわで購入。「元気SKYP」という団体ルートを通じて被災地へ届けて

もらう予定です。

3) 被災者への慰問は、クラブからの参加も得て、実施時期・方法などを決めたいと考えています。

●わ本部でお預かりした募金(第1次分、4月11日現在)

▽KSC 垂水会2万円、14期絵画クラブ1万円、環境未来館有志4万1千円、灘区会木下・渡辺2万円、国際部会柳川瀬5千円、里山和楽会2万円、松元楊子(生8)1万円、東灘区会有志6千円、西区会児玉浄・寛子1万円、11期食文有志1万4千円、川西大吉・公子5千円、須磨区会一同2万円、北区会役員一同1万9600円、はたる座1万円、灘区会1万円、菅田忠志・啓子5千円、西区会1万円、三島隆夫1万円、三輪匡清3千円、田野・国分2千円、男声合唱団4645円、茅中英一2千円、SCハワイアンズ1万4千円、生環12期有志5万円、むかしあそび研究会有志5万4945円、美工10期匿名1万円、わ本部役員8万9千円

【このレポートは随時発行、関係者へメール配信します】 2011年4月8日発行

問い合わせ先＝グループ〈わ〉内、東日本大震災支援プロジェクト(道満・大垣・南形)

Tel 743-8101 F A X 743-3830

メール group_wa_support@wa-net.jp